

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：げんきっず第2保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：宮嶋 千夏	定員（利用人数）： 70名（77名）
所在地：〒252-0143 神奈川県相模原市緑区橋本5-30-23	
TEL：042-700-7770	ホームページ： https://fuku-mirai.or.jp/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 平成27年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人みらい	
職員数	常勤職員： 11名 非常勤職員 13名
専門職員	（専門職の名称） 名 栄養士 1名(業務委託)
	園長 1名 調理師 3名(業務委託)
	保育士 21名 事務員等 2名
施設・設備 の概要	（居室数） （設備等）
	保育室 6室 事務室、相談室、一時保育室、休憩室、倉庫、園庭、屋上園庭など

③理念・基本方針

理念：「夢見る力と大きな感動を」

目標：①健康で明るい子ども

②自分で考えて行動できる子ども

③自分の思いを表現できる子ども

④施設・事業所の特徴的な取組

【園舎や立地について】

- ・2階建ての園舎で、園の前には専用の駐車場があります。各保育室は、南側に面しており、明るさを保っています。
- ・園の前に砂場や遊具のある小さな園庭があり、屋上には、鉄棒や滑り台などを設置しています。夏にはプールを設置しています。
- ・園はバス通りから少し入った場所に位置し、近隣は住宅街になっています。園の近くには公園や緑地、河川がある立地となっています。

【園の特徴的な取り組み】

①自己肯定感の高い子どもを育成するために

・自分が愛されていることを知り周りを信頼できる子ども（思いやりを持ち安心して自分の思いを伝えられる）

・自分で考え自分から伝えられる子ども

・身体を使って遊ぶことのできる子ども

・やりたい気持ちを持っている子ども を大切に考えた保育を行う。

②歩くことを大切にされた保育を行うことでしっかりした体幹を作る

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年 5月 9日（契約日） ～ 2023年 12月 12日（評価結果確定）
受審回数（前回の受審時期）	2 回（ 2018年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

◆今年度の方針を「やってあげる保育から見守る保育へ職員の意識改革を行う」と打ち出し、保育実践が行われています

「やってあげる保育から見守る保育へ」を今年度の保育目標の一つに掲げています。前年度は、子どもの主体性を考慮した環境を整えることに注力し、今年度はその環境の中で子どもが主体的に遊ぶ支援が行えるよう、子どもの主体性を伸ばすための取り組みを段階的に進めています。乳児クラスの戸外遊びの観察では、保育士は子どもたちが転んでも自分で立ち上がり遊ぶ様子を見守る姿勢を見せたり、抑止や制止の言葉を安易に使わず、絵本の読み聞かせをしたりすることで子ども自身が落ち着くのを待つ様子が見られました。幼児クラスでは、トイレのスリッパを子どもが手早く整頓したり、給食のご飯やおかずの量を保育士に確認しながら手際よく器に盛りつけたりする様子が見られました。保育士は「次は何をするのだけ？」と問いかけ、子どもが自分で考え動けるように働きかけています。子どもたちは基本的な生活習慣が身につくにつれ、見通しをもった園生活を送っています。保育園の生活を子どもたち自身が自分たちのこととして捉えており、子どもたちの主体性が発揮されています。

◆子どもの体幹を鍛えることを大切に考え、子どもたちが健康的に成長していくことを支援しています

子どもの身体の体幹を鍛えることを大切に考え、0歳児クラスから外部講師によるリトミックを取り入れています。3歳児クラスからは体操教室を実施し、子どもたちの身体作りを専門的な視点から支援しています。園の屋上には鉄棒やマットなど、器械運動ができる場所も用意しています。

日常の中では、よく歩くことを大切にして、天気の良い日には毎日散歩や戸外遊びに出かけています。公園や遊歩道のある立地を活かして、身体を動かしてたっぷり遊び、たくさん歩いています。自然の中で探索活動を十分しており、その中で色や数、自然現象などに興味を持てるようにしています。たくさん遊んだ後は、園に帰って意欲的に食事を食べています。乳児でもしっかり握れるスプーンを用意してあり、意欲的に自分ですくって食べる0歳児の様子が見られました。しっかり食べて、心地よく睡眠をとることから、よく遊び、よく食べ、よく眠ることで子どもたちの健康な成長を支援していることがわかります。

◆期待する職員像を職員全体に伝え、その職員像に近づけるように、経験年数や役職ごとの期待水準を定め、ステップアップできるよう取り組むことが期待されます

総合的な人材育成の仕組みづくりについては、長年の課題となっています。現在は、年2回の園長面談を活用した目標管理や研修により、職員の育成を図っています。今後は、園が大切にしている価値観を実現できるような人材の育成に焦点を当て、期待する職員像を全職員に伝えていくことが期待されます。職員がその職員像に向けてステップアップできるよう、経験年数や役職ごとに期待水準を定め、目標管理と連動させていくと理想的です。

また、新任職員のOJTについても組織的に実施していく必要性が感じられます。例えば、OJTチェックシートを作成し、OJTで習得する内容を列挙し進捗状況を確認していくことなどが考えられます。さらに、職員間や、系列園の間で互いの保育の質や標準的な保育について共有していくことも期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

前回の第三者評価受審から5年が経ちました。保育園も来年10周年を迎えます。10年目を迎えるにあたり全職員で今までを振り返り自園の保育について話し合えたことは大変有意義な時間であったと思います。

調査委員の方々には園の大切にしている部分を見て評価していただき、今後の保育の自信にもつながりました。現在足りていない部分に気づかせてもいただきました。今後も保護者の皆様の信頼を裏切らないよう、職員一同風通しの良い環境づくりを心がけていきたいと思ひます。

保護者の皆様にはアンケートにご協力いただきましてありがとうございました。貴重なご意見を今後の保育運営に生かしていきたいと思ひます。

最後になりましたが、丁寧に園の良いところを見てくださいました評価機関の皆様方に感謝を申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり